

令和5年度第1回教育改革推進会議概要

日時 令和5年5月29日(月) 14時00分～16時00分

場所 三重県庁講堂棟講堂

出席 教育改革推進会議委員（欠席：眞部委員、山田委員）

教育長、副教育長、佐藤次長、井ノ口次長、荻田次長、山添次長
教育政策課

●「三重県教育ビジョン（仮称）」の策定に関する主な意見等

- 教育ビジョンは、三重県教育施策大綱をふまえて策定するということであるならば、大綱の順序についても揃えなくてもよいのか。
- 策定にあたっては、子どもたちの意見を聴く機会をしっかりと設けることが大切。
- 「教育を取り巻く現状」の「子どもたちをめぐる課題の多様化」という文言について、「課題」という表現を変えた方がよいのではないか。
- 県としていじめや暴力、不登校に注力して取り組むことはよいと思う。また、暴力行為に関するデータを加えるとよいのではないか。
- 子どもたちの自己肯定感を育む教育を進めるうえでは、自己肯定感を高めること自体を目標にせず、認知スキルや非認知スキルを高め、結果的に自己肯定感が高まるという見方を持って取り組むことが大切。
- 自己肯定感に関する各国の比較のデータに加え、日本の基礎学力が高いことがわかるデータがあると、日本における教育の現状について、客観的に捉えることができよいのではないか。
- 「自分にはよいところがあると思う子どもたちの割合」や「地域や社会のために何をすべきかを考えることがある子どもたちの割合」などのデータについて、教職員に対しても同じデータがあると、新たな課題が見えてよいのではないか。
- 特別支援学校や特別支援学級だけでなく、通常の学級においても支援が必要な子どもたちが増えていると感じる。

- 誰一人取り残さないという観点が必要であることを考えると、LGBTQや、子どもの人権に関するデータがあるとよいのではないか。
- 「人口減少、少子・高齢社会の進行」の「住民同士の交流が滞る」という表現について、コミュニティ活動が活発な地域もあるので記述を工夫してはどうか。
- 共働き世帯が増加していることが分かるデータや、フリーランスや副業の増加などの多様な働き方が増えていることが分かるデータがあるとよいのではないか。
- AIやDXなどこれからのデジタル社会の進展に関するデータがあるとよいのではないか。
- 三重県の地域性を考慮すると、教育の地域格差についての記述が必要ではないか。
- チャットGPTや生成AIなどのICTが普及する中、単にICT機器を利用する力を身につけるだけでなく、情報の真偽を見極める力を身につけることが大切。また、「主体的・対話的で深い学び」や「探究学習」などの何を教えるかということだけでなく、どのように育むのかという視点をもつことが大切。
- 現行の「三重の教育宣言」は、子どもたちを大切にすることを重視する視点が伝わりやすい。次期ビジョンにおいても、「三重の教育宣言」や「ビジョンに込める想い」のように、誰もがわかりやすいメッセージがあるとよい。
- 「子どもたちに育みたい力」について、AIなどのデジタル化が進む中、「創造する力」を加えることはよいと思う。
- 「子どもたちに育みたい力」にある「協働する力」について、より広くとらえた「共生する力」という表現の方がよいのではないか。
- 「子どもたちに育みたい力」を身につけた子どもたちはどのような子どもになるのかという記述があるとよいのではないか。
- 「子どもたちに育みたい力」および「教育ビジョンを貫く視点」については、学校だけでなく、家庭や地域も含めて取り組むことが重要。いじめや不登校などの課題に対して、学校、家庭、地域それぞれが、当事者意識を持ってどのように取り組むのか記述するとよいのではないか。

- 教育における家庭の役割は非常に重要であるが、ひとり親世帯の増加や三世帯世帯の減少など家庭の負担が大きくなっていることも事実。こういったことから、家庭における教育の役割についてはバランスを考えて記述することが大切ではないか。
- 「教育ビジョンを貫く視点」について、2つめの「学年や校種を越えた連続性のある教育を行います」と、3つめの「家庭・地域と連携・協働して子どもたちを育む学校づくりを行います」は統合してもよいのではないか。
- 「教育ビジョンを貫く視点」について、人とのつながりを大切にするという記述や、子どもたち一人ひとりのよいところを見て、可能性を伸ばすという記述があるとよいのではないか。
- 教員がやりがいを持って子どもたちと向き合うためには、教職員の業務負担の軽減に取り組むとともに、教員の相談体制や研修体制を充実させることが大切。研修体制を充実させることは、学校間格差の解消にもつながる。
- コロナ禍における経験を今後どのように生かしていくのかという視点があるとよい。
- 諸外国と比較すると日本は自殺率の高い国であることから、子どもたちの自己肯定感を高めるという取組の方向性はよいのではないか。
- 全体を通じて小中学生が中心の記述になっていると感じるため、高校教育に関する記述をさらに充実させてはどうか。
- 「基本施策・施策」の「県立高等学校の魅力化・特色化」については、高等学校だけでなく小中学校についても大事な視点であることから、小中学校を含めた学校の特色化・魅力化について取組を記述する方がよいのではないか。また、多様化する学びのあり方をしっかりと支援するという視点を持つことが大切。